短大・学園たより

〔発 行 所〕
東北女子短期大学
ほか
弘前市上瓦ヶ町25
TEL ㉜ 6151
〔印 刷 所〕
有限会社新和印刷

新風さわやか　学園各校の入学生

四月十一日に学園五校合同の入学式が、弘前市民会館で行われ、東北女子大、短大、栄養専門学校、コンピュータ専門学校、経理専門学校の新入生あわせて三四四人が、学生生活の第一歩を踏み出しました。

式では、新入生が各科ごとに紹介されたあと、新入生を代表して東北女子大学児童学科の渡邊美稀さんが「学則や諸規則を守り、伝統に輝く本学学生としての本分を全うします」と力強く宣誓しました。

次に小澤熹東北女子大学長と三専門学校長を兼ねる河西達夫東北女子短期大学長が式辞を述べました。

続いて新入生に関係する各校の教授紹介があり、新入生は壇上の先生方にこれから始まる学校生活の期待を重ね合わせ、注目していました。

最後に父母が見守るなか、女子大児童学科三年と短大保育科二年生が校歌合唱で新入生を迎え厳粛な中にも華やかに式は終えました。

午後一時からは各校で新入生父母会や教科書販売があり、はやくも真新しい制服姿で、寮の先輩と連れだって歩く姿も見受けられました。

東北女子大学で新校舎起工式行われる　清原キャンパスへの移転新築事業

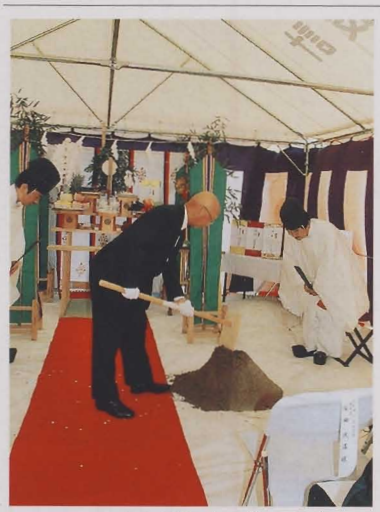
東北女子大学の校舎新築工事の安全を祈願して五月三十日に清原キャンパス内の建築予定地で地鎮起工式が厳かに執り行われました。

校舎新築計画は現在の豊原キャンパスからの移転新築事業であり、学園の長年の念願がいよいよ叶うことになります。

敷地の造成開発は、総面積四万二千㎡にも及び、建物全体は鉄骨造五階建で延べ床面積一万三千㎡を超える規模となります。

一階には将来の栄養士養成課程を見据えたHACCP（ハサップ・食品衛生管理）対応型給食実習室をはじめ学生ホールや図書室、二階には現在の二倍以上に及ぶ多目的ホールや被服関係実習室。その他教育・心理学系実習室や美術・音楽系実習室、礼法室、ピアノボックスなど全百四十室にわたる教育空間を設け、学生が自らを活性化し、研鑽できる環境を整備しました。

清原キャンパスには柴田幼稚園と大学寮の清風寮があり、また毎年学園総合体育大会が開催されているなど、私たちにとって今後も重要な場所であると思います。敷地中央部に準用河川である洞喰川を擁する自然に満ちたキャンパスですので、出来る限り緑を生かした環境に秀でたものを作り上げていく予定です。



工事の安全を祈願する柴田理事長
（陸奥新報社提供）

学園創立記念式典・祝う会

新緑も鮮やかな五月十四日に、学園創立記念式典並びに記念講演会が弘前市民会館において行われました。

はじめに柴田誠造理事長より、「創設者柴田やす先生、今村敏先生、今村城太郎先生が発信し続けてきた学園の精神を胸に、みなさんも誇りをもって歩んでください」と挨拶があり、学生・職員も心を新たにしました。

続いて弘前ペンクラブ会長齋藤三千政氏が「太宰治生誕百年を迎えて」と題して講演。ユーモアに富んだ人柄や、読む人を引き付ける文章の巧みさなどを郷土作家とのエピソードを交えながら話し、今も圧倒的支持を得ている太宰文学の魅力を紹介しました。

また正午からは、学園関係者・教職員出席のもとに創立86周年を「祝う会」が開かれ、ともども更なる発展を誓いました。

豊かな学びを

（式辞要旨）

東北女子大学長
小澤　熹

東北女子大学に入学された皆さん、並びに本学園各姉妹校に入学された皆さん、おめでとうございます。

本学園の創設は、遠く大正十二年（一九二三）に、学園の母と仰がれる柴田やす先生が、弘前和洋裁縫女学校を設立した時に始まります。

そのときから、本学は時代の要請に応え、時代の困難を克服できる人材の育成と、それを支える教育研究の発展に努力して参りました。

この本学の教育研究活動を一貫する根本的基盤は、「教育即生活」という建学の精神に他なりません。

少し具体的に言えば、最初の一つは、「教育を生活の中に生かせ」という、生活教育の理念とその徹底であります。

その二は、「高い教養と正しい躾（マナー）を身につけよ」という、人物育成の具体的目標と方法といえましょう。

その三は、「常に希望を抱き、時代とともに歩め」というもので、変転極まり無い不確実な時代を生き抜く力を養えということです。

この三つのことを、確りと理解し、身につけてください。

まずは、皆さん個人が期待する専門分野の具体的知識、技能の習得と自立する力の獲得でありますが、ただ漫然としていても、身に着くものではありません。

そのためには、入学後も強い希望と具体的目標を持ち続け、一定の努力をすることによって、必ずや実現するものと考えております。

そこで、この希望と努力について、一九世紀後半に活躍した、哲学者・文学者であるフリードリッヒ・ニーチェの言葉を思い起こしてみましょう。

彼は、次のように言っています。

「飛ぶことを学んで、それをいつか実現したいと思うものは、まず立つこと、歩くこと、走ること、よじ登ること、踊ることを学ばなければならない。

最初から飛ぶばかりでは、空高く飛ぶ力は獲得されない」と。

一言で言えば、基礎基本から順序を踏んで、積み上げて行く努力と繰り返しの訓練を実行すれば、高く空を飛びたいという希望がかなえられるという喩えです。

とにかく、皆さんはこの不況の時代にあっても、大学で学べるという、得難いチャンスを手にした訳ですから、愉快に友だちと交流し、豊かに学び、二十一世紀を力強く生きるための広い視野と高い能力を持った一人の立派な人間に育って欲しいと願っています。

ご家族の皆様には今日から、お子さんを温かく見守り、励ましてくださるようお願いいたしまして、式辞とさせていただきます。

新入生を迎えて

～入学式式辞より～

格物致知

（式辞要旨）

東北女子短期大学長
東北栄養専門学校・東北コンピュータ専門学校・東北経理専門学校　校長
河西達夫

新入生の皆さんの、柴田学園へのご入学を心からお祝い申し上げます。

柴田学園は大正十二年に柴田やす先生によって創立され、今年で創立八十六周年を迎えました。この八十六年という長い期間で、たくさんの卒業生が社会に出て行かれました。

先ほど、手元に届いた資料によりますと、短期大学の場合、本年度の進路決定者は87％という数字ですが、これは四月上旬の数字ですので、現時点ではもう少し数字が伸びて90％には達していると思います。

このようなことも、先生方のご努力のほか、卒業生の皆さんが後輩のために支援の手を差し伸べてくださることが影響していると思われます。

さて、大学生活とはどのようなものであるかをお話しておきたいと思います。いままで皆さんの高校生活では、だいたい受身の教育を受けてこられました。具体的には物事を暗記する教育、先生のいうことをそのまま鵜呑みにして覚えるという、いわば受け身の教育が主体であったと思います。

しかし、大学生活の場合は、それでは十分ではありません。実際には自ら進んで学ぶ自主的な、そして考える勉強が求められます。

大学生活とは何かということを、中国の書物では「格物致知」という言葉で表現しております。ちょっと難しい言葉ですが、日本語読みにして返り点をうって読みますと、物の本質を究めて知識を確実なものにするという意味だそうです。皆さんがこれから使う教科書などを読んで勉強するとき、「これはなぜだろう、どうしてだろう？」という疑問につき当たることがよくあると思いますが、そういう問いに対する答えは、教科書にはあまり書かれていません。それを自分でよく調べて疑問を解決する、それこそが自分の本当の知識になると思います。

もう一つ、大学生活で大切なことは、良いお友達を得ることです。

アメリカの言葉で「ノー、マン、アローン」という言葉があります。アローンというのは一人ぼっちということですから、この言葉の意味するところは、「人はひとりでは生きられない」ということでしょう。

お友達同志が互いに励ましあい、助けあって、学問的にも人間的にも成長して、大学生活をエンジョイしていただきたいと思います。

みなさんの大学生活が実り多いものでありますよう、心から祈っております。

学内人事

◇昇任
・阿保順子講師が准教授に昇任
・小林由美子講師が准教授に昇任
・田中 恵講師が准教授に昇任
・西 敏郎講師が准教授に昇任
・木村秀子助手が講師に昇任
・下山春香副手が助手に昇任
・小野美沙子副手が助手に昇任

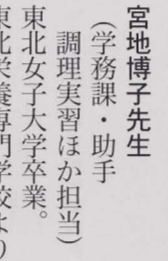
◇転任
・中島里美助手が栄養専門学校より転任
・宮地博子助手が栄養専門学校より転任
・鳴海義人教授が女子大学へ転任
・木村康子助手が栄養専門学校へ転任

◇退職
・教授鎌倉ミチ子先生が3月31日付で退職

◇新任
・七戸英之先生が教授、学務課長として4月1日付けで着任
・蔦谷則雄先生が講師として4月1日付けで着任

新任紹介

七戸英之先生
（学務課長・教授 図画工作ほか担当）
昭和47年～平成17年の東北女子短期大学勤務を経て東北女子大学に転任。平成18年同大を退職。今春短大に着任。「なるようになるさ」が信条。



蔦谷則雄先生
（家政科学研究所・講師 言葉ほか担当）
今春柴田女子高等学校を定年で退職し、本学に勤務。趣味は読書と音楽鑑賞。「新しい職場環境で、新たに挑戦する気持ちを持って取り組んでいきたいと思います」。

宮地博子先生
（学務課・助手 調理実習ほか担当）
東北女子大学卒業。東北栄養専門学校より転任。特技はバレーボール。「不慣れなところもありますが、日々成長できるよう一生懸命頑張ります」。

中島里美先生
（生活科研究室・助手 カフェテリア実習を担当）
東北栄養専門学校より転任。趣味は家族とドライブをすること。「カフェテリア実習を通して、〝栄養士になりたい〟と一人でも多くの学生に思ってもらえるよう精いっぱい頑張ります」。

学園点描

豊原の校舎もあとわずか

女子大

竣工とく遠山、藤が原スがのぎのあとり豊パ着お過舎です。校ま年。木桜どいン愛しがに岩はみしゃのとい々日に春と美キへひ日て

新しい柴田山・畑が完成

幼稚園

女子大新築に伴う柴田山と畑の移設が数日で完成。ブルドーザーの威力はすごい！

元気なジャガイモ

平成20年度 柴田学園決算報告

学校法人柴田学園の平成20年度決算は、5月28日開催の理事会において承認されました。

消費収支計算書

平成20年4月1日から
平成21年3月31日まで

（単位：千円）

支出の部		収入の部	
科目	金額	科目	金額
人件費	1,154,917	学生生徒等納付金	1,094,946
教育研究経費	274,423	手数料	8,970
管理経費	98,715	寄付金	942
借入金等利息	8,984	補助金	318,142
資産処分差額	2,395	資産運用収入	12,889
徴収不能引当金繰入額	1,049	事業収入	6,795
		雑収入	87,619
消費支出の部合計	1,540,483	帰属収入合計	1,530,303
当年度消費支出超過額	△ 72,844	基本金組入額合計	△ 62,664
前年度繰越消費支出超過額	△ 1,304,340	消費収入の部合計	1,467,639
翌年度繰越消費支出超過額	△ 1,377,184		

貸借対照表

平成21年3月31日

（単位：千円）

資産の部		負債・基本金・消費収支差額の部	
科目	金額	科目	金額
固定資産	5,881,267	固定負債	692,684
土地	1,101,313	長期借入金	233,250
建物・構築物	1,542,993	退職給与引当金	459,434
機器備品	89,964	流動負債	256,965
図書	251,635	短期借入金	36,214
その他の固定資産	2,895,362	前受金	190,218
流動資産	605,613	その他の流動負債	30,533
現金預金	514,396	基本金	6,914,415
その他の流動資産	91,217	消費収支差額	△ 1,377,184
合計	6,486,880	合計	6,486,880

柴田学園創立記念講演

太宰治　生誕百年を迎えて

弘前ペンクラブ
会長　齋藤　三千政

文壇のキムタク

太宰は明治四十二年、つまり一九〇九年六月十九日に生まれました。今年の六月十九日には生誕百年を迎えます。太宰が亡くなってから六十一年経っても人気は一向に衰えません。そこで今日は太宰について、楽しいエピソードを皆さんにご紹介しながらお話をさせていただきます。

太宰治の身長はどのくらいかわかりますか。一七六センチです。太宰の銅像が、太宰の誕生日でもあり、太宰の遺体が発見された日でもある六月十九日、芦野公園の文学碑の隣に建つような話が、昨日の新聞に載っていました。太宰の作品を読むと、太宰は自分の身長が高いのをあまりうれしく思っていなかったようです。むしろ小説家の身長が高いというのは、あんまり良くない、と感じていたくらいです。ですから、猫背になるくらいかがまっていたみたいですね。

皆さんのよく知っている芸能界で身長が一七六センチといえば、二人を知っています。一人目はスマップの木村拓哉。もうひとりはオダギリ・ジョーです。私はひそかに太宰のことを〈文壇のキムタク〉と呼んでいます。

今度は太宰の好きな食べ物を紹介します。『太宰治大事典』というのがあるんです。九八〇〇円もする大きな事典です。そこには、まず筋子納豆と書いています。筋子と納豆を続けて書いてあるんですね。

今朝、この筋子納豆というものが、どのような味がするのか皆さんに披露しようと思いまして、納豆と筋子を混ぜて、ご飯と一緒に食べてみました。なんかあんまりおいしくないですね。最後には、どろどろしてきました。

次が湯豆腐。そして一番好きなのが、お酒です。お酒は毎日飲んでいたようです。しかも、日本酒でしょうか。一晩で六合から七合くらい飲む大酒飲みだったようです。なぜか、味の素も大好きだったようです。

奥さんの津島美知子さんが『回想の太宰治』（講談社文芸文庫）のなかで、太宰の日頃の生活についてこう書いています。

太宰は、毎日午後三時まできちんと小説を書きます。その後お風呂に入り、上がったら豆腐をつまみにお酒を飲みます。夕方から飲みはじめ、夜九時ごろまで飲みたいだけ飲んで寝る、ということです。あまりたくさんの豆腐を食べるので、近くの豆腐屋さんが、どうしてあそこは夫婦二人なのにあんなに豆腐を買っていくのだろうと驚いてるんですね。

その理由は、太宰は歯が悪かったことにあったようです。三十歳で全部入れ歯でした。ですから、柔らかい食べ物を好んだようで、バナナも柔らかいからよく食べていたようです。

お金で買えなかった詫びとり

太宰は最後まで詫りがとれませんでした。太宰というのは、おしゃれなんですよ。生家の津島家はお金持ちで、青森県でも有数の大地主で、太宰はその息子です。旧制弘前高校に入った昭和二年ごろの太宰のお小遣いは、今の金銭感覚でいえば月に百万ぐらいかもしれません。高校生にもかかわらず、これだけ贅沢ができたわけですから、非常におしゃれもできたのです。

ところが、お金で買えないものがありました。〈詫りをとる〉ということです。太宰は、江戸弁を覚えようとして一生懸命義太夫などのレコードを聴いていました。レコードを聴いて、もうそろそろ津軽の詫りがとれたと思い、あるおでんやに行って「おう、ねえちゃん、熱燗、一本おくれや」と早口でベラベラと江戸っ子風に言ってみたのです。そうしたらその姉さんが即座に「お客さん東北出身でしょ」って言ったそうです。

その瞬間、太宰の苦労が一気に崩れてしまったのです。

ペンネーム「太宰」の由来

太宰の詫りが強かったことを示すエピソードがあります。

東大の仏文科に合格して、昭和五年に上京したときに、親友の今官一と仲間が太宰を上野駅で迎えたときの話です。今官一は太宰と同じ年に生まれ、今年の十二月八日に生誕百年を迎える弘前市出身の直木賞作家です。

上野に着いた太宰が自分の靴を指差して開口一番こう言ったそうです。

「けりの、しぼ、かう」

年配の人たちはわかるかも知れませんが、若い人たちは何を言っているのかわからないと思います。

津軽弁で「けり」というのは靴のことで「しぼ」というのは紐のことです。つまり靴の紐が切れたと、太宰は言いたかったのです。出迎えた今官一らは太宰が疲れただろうということで、上野の駅の喫茶店に誘いました。

ウエイトレスが水を持ってきて「お客さん何になさいますか」と聞きました。太宰はそのウエイトレスに「けりのしぼ」と真剣に言ったそうです。ウエイトレスが思わず「えっ」。わかる訳ないですね。

今官一が「まあ、まあいいからこれは後で、いいから、いちごミルクでも頼むか」と言うと、太宰が即座にこう言ったそうです。

「わ、ミルク、いずごも飲めね」

月に百万円ぐらいも実家から仕送りしてもらう贅沢な生活をしている太宰が、イチゴミルクをそのときは知らなかったのです。

「ミルク一合も飲めるもんだが」

太宰はそれだけ詫っていたのです。「おしゃれ童子」という作品もありますし、「服装に就いて」というのもありますし、太宰は服装に非常に凝っていました。ですから、口さえ言わなければ本当におしゃれで通ったのです。

齋藤三千政 先生　ご略歴
1947年平賀町（現平川市）生まれ。
新潟大学人文学部文学科国文学専攻を卒業後、青森近代文学館室長、県立各高校長を歴任。
2008年4月よりＮＨＫ弘前文化センター講師を務めるほか、太宰治生誕100年記念事業関連業務に参画。
弘前ペンクラブ会長、青森県郷土作家研究会理事、日本近代文学会員。

太宰は「つしましゅうじ」と発音できませんでした。どうしても「ちしま」、「つすま」になってしまいます。ですからペンネームを太宰にしました。「だざい」は訛らないからです。

落語から学んだ語り口

太宰治の作品に「二十世紀旗手」というのがあります。自分のことを二十世紀のナンバーワンだと言っているのです。自分の作品の題名とするには、ある意味では傲慢との批判もあります。

太宰は自分の作品の題名と冒頭の一文と結びの一文、そしてエピグラフに全精力を集中しています。ですから太宰の作品を読むときには冒頭の一文に注目してください。

「二十世紀旗手」のエピグラフは一行。

「生れて、すみません」

私が太宰を好きになったのは、そのユーモアにあります。太宰が一番多く読んだのは三遊亭円朝の落語全集です。太宰の文章を声に出して読むとわかります。語り口が上手いのです。よく読むと、落語のオチになっています。私は、文学というのは文字で読むよりも、ことばで耳から入るものの方が先だと思います。文字がない時代から、はるか昔からことばはあったはずです。

三内丸山を見れば想像できます。文字がない紀元前五五〇〇年から四〇〇〇年までの一五〇〇年あまり続いた生活を想像してみます。文字は発掘されておりませんが、ことばを使って話してないとはいえません。巨大な組織のもとで、ことばによるコミュニケーションがとれないと、あれだけのものは建てられないと思います。

文字はありませんでしたが、誰かが歌ったり読んだり話したりするのを耳から全部理解する、これを口承文芸と言い、はるか昔から続いていると思います。その伝統を太宰も受け継いでいるのではないでしょうか。ですから、声に出して呼んでみると太宰の文章の素晴らしさが分かります。

太宰文学の真髄

ほかに太宰の特徴が出ている作品として「鉄面皮」があります。

鉄の面の皮と書きます。厚かましい、恥知らず、ずうずうしいという意味で、相手を罵倒したり、非難することばです。普通は小説のタイトルにこのようなことばは持ってきません。

さらに驚いてしまうのは、その後の最初の一行です。

「安心し給え、君の事を書くのではない」

こういう芸当ができるのは太宰しかいないと思います。ここには、太宰の特徴がよく現れています。

それは何かというと「君」ということばです。語り口の上手さのほかに、太宰は二人称を使うのに長けています。太宰の小説を読んでいて「あなた」とか「諸君」とか「君」と言われると、読んでいる人は太宰から自分あてにメールが届いたような錯覚に陥ります。太宰の気持ちが自分のところにストンと、ダイレクトに入ってくるのです。

ですから、太宰のファンの人はみんな、太宰をわかるのは自分だけだと思っています。奥野健男という文芸評論家が、太宰の文体の語りかける「あなた」、「君」、「諸君」このことばをことばとしては「潜在的二人称」と呼びました。太宰文学の最大のカギはここにあると思っています。

太宰の文学を、なぜ今、若者が読むのかというと、それは、心と心の触れ合いを確認できるからではないでしょうか。太宰の文学は人と人との心の触れ合いをつかむことができます。これを私は文学の普遍性と呼んでいます。

忘れられぬ『津軽』のラスト・シーン

私は太宰十七点のうち一番好きなのが『津軽』という作品です。

昭和十九年の五月十二日に東京の三鷹の自宅を出発して、十三日の朝八時に青森駅に着いて、それから約二週間ほど、津軽半島を取材旅行した様子を書き綴っています。昭和十九年の十一月に出版されました。

今でいえば斜陽館で、太宰が小さいときに育てられた乳母のタケさんと、小泊で三十年ぶりに再会する感動的なラスト・シーンがあります。いつも太宰について話す機会があれば、この部分を読んでいます。ちょっと読んでみたいと思います。

「久し振りだなあ。はじめは、わからなかった。金木の津島と、うちの子供は言ったが、まさかと思った。まさか、来てくれるとは思わなかった」

これは、タケさんが太宰に語りかけるシーンです。小屋から出て太宰の顔を見ても、わからなかった。三十年ぶりのことで太宰が五歳のときから会ってないので無理もありません。シーンは続きます。

そして「愛ごくてのう」と、訛っているタケさんのことば。

この名場面を大学の卒論の発表会のときに読んだある女子学生が、最後は読み終えて大きな声をあげて泣き出しました。四十数年経ちますけど、いまでもそのことをはっきりと思い浮かべることができます。

この『津軽』という作品のラスト・シーンというのは、おそらく太宰の作品を超えて日本文学史上に燦然と輝く、名場面ではないでしょうか。津軽のことばが持っている強さ。訛りがあっても、相手の胸に訴える、心に訴える力があります。

最後に、津軽のことばの強さ、これを紹介したいと思っております。平成十七年の第二十回全国高校文芸コンクールで青森県立青森第一高等養護学校三年の小野雄也君が、全国文芸コンクールの詩の部門で第二位に相当する読売新聞社長賞を受賞しました。彼のその詩を皆さんにお聞かせしたいと思います。

『わどかっちゃの十七年』
青森県立青森第一高等養護学校三年小野雄也。
（以下、省略させていただきます。）

最後まで御清聴ありがとうございました。

平成二十一年五月十四日
弘前市民会館

女子大学

栄養専門職も好調！ 関東圏教員にも期待が

厳しい社会情勢にも負けず、今年度の就職率は昨年を上回る結果となりました。

特に教員採用試験では、ここ数年関東圏への進出がめざましく、毎年二桁の勢いで実績を伸ばしています。

今年も神奈川県17名、千葉県3名、埼玉県2名等計23名（内本採用61％）が新卒教員として教壇に立ちました。

恒例となった横浜中華街でのネットワークづくりの会合には毎年30名を越える卒業生が参加しますが、今年は児童学科2回生、横浜市内の小学校副校長をしている弘前市出身齋藤正子先生も出席され「いつでも応援しています。何でも相談してね。」の言葉に「大きな安心感と励ましをいただいたようで嬉しい！」と会話が弾んでいました。「子どものいるところならどこへでも!!」をモットーに今年の四年生も七月の教員採用試験に挑みます。

県少年サポートボランティア（ピコット）に県警より委嘱を受ける

小・中学校の万引・薬物防止など、非行や立ち直りのための支援活動に児童学科四年生の亀田さん・武田さん・天間さんの三人が県警より委嘱を受けました。

「日本の将来を担う青少年の健全育成に少しでもお役に立てるよう頑張りたい」とメンバーは活動への意気込みを熱いまなざしで語っていました。

弘前城ミス桜コンテストにダブル栄冠

四月十二日に、観光都市弘前に彩りを添える「第26回ミス桜コンテスト」が開催され、ミス桜グランプリに児童学科三年の小野左岐子さんが、ミス桜には同じく児童学科三年の梶浦郁美さんが選ばれ、ダブル受賞の喜びとなりました。

二人は弘前市の四季を彩る四大まつりや県内外の各種イベントにも参加し、観光弘前の魅力をPRします。

短期大学・専門学校

短大 全東北茶道大会に参加

六月六日、七日の両日、山形市蔵王温泉岡崎屋旅館で行われた第41回全東北茶道大会に本学茶道部員四人が参加しました。

表千家が亭主をつとめるお茶席にはいり、参加した部員は「流派が違っていてもお道具の扱い方が丁寧なところや、作法は同じであると感じました。また、亭主のお話で、おもてなしの心を掛け軸や道具に託して伝え、それが日本人独特の感性であると話していたことが印象に残りました」と話していました。

また学園祭のお茶席では、お客様に最高のおもてなしができるように稽古に励みたいと、意気込みを語っていました。学園祭にはぜひ、茶道部のお茶席に足をお運びください。

東北経理専門学校 充実した一年間へ

本校は一年制なので学校行事は毎年新たな取り組みの連続です。

前年の経験がないということを前向きに捉えれば、自分たちの自由な発想をいかせるということです。少人数のため打ち合わせや実際の準備などで忙しくなるけれど、みんなで協力しながら作り上げる喜びがあります。勉盛り上げて、充実した学校生活にしたいと張り切っています。

懐かしい顔・顔… あの頃にかえって同窓会

五月十日に、セントラル青森に於いて保育科11回生（昭和51年度卒）のクラス会があり、西谷・阿保先生を囲んで24人が集いました。東京・仙台からの出席者もあり、誰かが会場に着くたびに大歓声。53歳とは思えぬ賑やかさ？　若々しさです。

「薔薇の会」と名づけたこの会も回を重ねること11回。仕事や子どものこと、親の介護や恩師・母校の思い出話に、笑いとしみじみをくり返すうちに時間となり、再会を期して校歌で散会しました。

今後も九月六日にはむつ下北支部総会、九月十二日には保育科5回生のクラス会が予定されており、学園に学んだ人達の温かい交流が続いています。

学園ニュー

東北栄養専門学校
秀芝寮での給食管理実習

「安心・安全で喜ばれる食事提供」を目標に、五月二十三日より秀芝寮において二年生五人体制の実習がスタートしました。今回は一年次の経験を基に「完璧な身支度」、「機械器具・施設の衛生管理の徹底」、「作業計画に添った人数配分で能率化を図る」、「嗜好調査結果を考慮した献立作成」、「献立名の工夫」のレベルアップを図りました。試作では、一週間分の分量・味付け・色彩・適温等を再検討し、本番に臨みました。栄養士・調理師それぞれの立場を経験する中で、コミュニケーション力・マネージャー力・チームワーク力・献立力・調理力等、社会に出る前に更に力を蓄える必要を痛感した実習となりました。

東北コンピュータ専門学校
学外演習旅行行ってきました！

二年生は、学外演習旅行として、六月十一日～十四日の三泊四日で、幕張メッセで行わ強とともに課外活動もれた「Interop Tokyo 2009」に行ってきました。クラウドコンピューティング、仮想化、グリーンICT、次世代ネットワークなどのICT最新技術の展示を見てきました。デジタル技術を用い、タイムリーに映像や情報をディスプレイ表示する次世代型インフォメーションシステムのデジタルサイネージに圧倒されました。

夜には、関東圏で働いている卒業生との懇談で、先輩方から「仕事できるのは卒研のおかげ。課題も頑張れよ。」と激励され、元気をもらい帰って来ました。

柴田女子高校

高校総体（6/6～6/8）
バスケットボール部 2年連続8度目の優勝

今大会は選手の調子が良く、準々決勝まで各チームを大差で撃破。さすがに準決勝の聖愛高校、決勝の三沢商業はそうはいかず、前半をリードされ厳しい展開となりました。

しかし、毎日の厳しい練習に耐えに耐えてきた選手たちは「絶対に勝つ」という勝利をあきらめない強い意志で、最後までコートを「走って走って」接戦を制して優勝を飾りました。六月末東北大会、七月末から全国大会（大阪市）へ出場します。

スコア

柴田73

20	20	13	20
—	—	—	—
11	11	15	23

三沢商業60

JRC部
桜祭りで奉仕活動

中弘南黒地区の高校生合同の「弘前さくらまつり奉仕活動」が四月二十五日までの土日・祝日計七日間で行われました。

本校は高校部会事務局校として、四十名の生徒が会場内で清掃活動をしたり、迷子の案内役を務めました。また、桜舞クラブでの司会進行やパンフレット配りなどの奉仕活動では、終了後「ボランティア参加認定証」を授与され、奉仕活動の達成感を再確認することができました。

第16回増田手古奈記念 大鰐温泉俳句大会

〔手古奈賞〕

高校・一般の部

さんびーな冬の田舎はしばれるじゃ

卒業生　川崎結衣

〔推薦〕

お父さんと久しぶりに来たスキー場

2年　山本紗衣

白鳥が雲に隠れて空を飛ぶ

3年　村上美希

柴田幼稚園

スクールバスは楽しいな

四月、お家の人と離れられず涙ながらにバスに乗ってきた新入園児たち。今では、他のクラスや年齢のちがう友達とおしゃべりしたり、先生とクイズや楽しいお話をしているうちに心細さも忘れ、みんな笑顔で到着。玄関に大きな声で「おはようございまぁ～す」と入ってきます。こうして楽しい幼稚園の一日が始まります。

新しい畑ができたよ 秋の収穫が楽しみ！

幼稚園の畑が学園総合グラウンド横に移設され、園舎にぐっと近くなりました。子ども達は丸太で枠どりした新しい畑を見て「オーすごい」とビックリ。

さっそく五月十三日にジャガイモを植えました。ほかに何を育てようかと今相談中です。身近に生長を見たり、草取りや水かけもしやすくなるのでますます張り切っています。

学園生活を彩るいこいの場

山の家のおもいで

百沢スキー場にほど近い柴田学園「山の家」。建物もログハウス風からペンション風に変わり、常駐の山のオジさんも優しいと人気です。40年にわたる「山の家」の思い出をたどってみました…

岩木山麓桜林に待望の柴田学園合宿所「山の家」竣工

昭和四十二年の二月に合宿所が落成。丸太を生かした素朴な「山の家」は、遠足やクラブ合宿・研修のために使われました。林に学生の歓声が響くと地元の人も来て世話をして下さるなど、まだ古き良き時代でした。

当時山の家へ行くには桜林から入る狭い自然道しかなく、荷物や食料を持ちながら歩くこと30分ほどで到着。水は井戸水、煮炊きはかまど、昼夜カメムシと暑さに悩まされ、いまでは考えられない合宿風景でした。そんな中で短大合唱団は山崎祥子先生の特訓に耐え、昭和四十二年合唱コンクールで県代表として東北大会に出場する快挙を遂げました。

昭和43年7月、柴田幼稚園年長児145人がハイキング。自然の中で大はしゃぎ！

おしゃれな山の家に変貌 四季折々に訪れる学生

当時の部長福真和子さんは、「ベビーオルガン一つで難しい課題曲に挑戦。川で冷やしたスイカの美味しかったこと！」と語っていました。

しかし冬期の積雪による建物の傷みは大きく、山の家は補修に追われていきました。

ヤッホー！大きな岩木山が後に

校内研修に活発に利用された山の家も築後二十五年を経て老朽化し、近くに第3リフト場ができるなど立地環境の変化もあって、平成四年に同じ場所に再築されました。

新しい山の家は鉄骨二階建。ホワイトとブラウンを基調にした建物は周りの緑にマッチして、ぐっとおしゃれになりました。一階のシャンデリアが美しいラウンジやセミナールームは研修や食事に、また二階の大小五つの和室は宿泊に利用され、一度に百名程度の宿泊研修が可能になりました。

初夏のヴィラ豪華？な手作りの料理を前に「いただきまあす！」

教員と一緒に楽しむ山の家宿泊研修

新築の翌年から各科二年を中心にした「山の家研修」が始まり、気候の良い五月から九月にかけて行われました。上には間近に岩木山、下には遠く弘前市一帯が広がり、素晴らしい眺望！　各科の計画のもと、講話、座談会、食事づくり、自然散策、レクリエーションで盛り上りました。

「短大での修学旅行気分もいいナ」とおしゃべりは夜中も続き、にぎやかな声が山の暗闇に消えていきました。

この他にも山の家は学友会合宿やスキーの特別指導、クラブ合宿などに今も多彩に利用されています。

お世話になった山のオジさん

山の家の保全と通年利用のために、山の家に管理人が常駐しています。学生は〝生活の達人〟である山のオジサンから厨房の使い方、料理の手順、山菜のアクぬき、掃除の仕方などを教わり、合宿が終わる頃にはすっかり親しくなっていました。厳しくも優しかった秋元弘さん（平成5～17年）、気さくで面倒見のよい相馬芳廣さん（平成17年9月～現在）、ありがとう！

活躍する卒業生

本当のスタートライン

平成20年保育科卒　村木梨紗

地元の保育園で臨時保育士として働き、二年目になりました。

自分が年長児の時の担任だった先生に憧れて、保育士になりたいと思った私ですが、学生時代には、自分は向いていないのではないかと悩むこともあり、諦めようと思ったこともありました。しかし実習のたびに子ども達と共に、喜び、悩み、成長できることの素晴らしさを味わうことで、やはり保育士になりたいという気持ちが強まりました。

そして昨年度は二歳児、今年度は一歳児を担当させて頂いています。そこで子ども達は年齢的な違いはあれ、内面的なところは共通していると感じました。

保育士が不安だと子どもも不安になり、逆に心から楽しそうな笑顔であると子どもの表情も豊かになります。まさしく子どもから教わることはたくさんあると実感しています。また、「先生好き！」という子どもの言葉や、「先生ありがとう」という保護者の言葉は、私の励みになっています。

幼い頃からの夢を叶えることができ、これからが本当のスタートラインだと思っています。日々悩み、自問自答のくり返しですが、これからも子ども達と新たな発見をしながら共に成長していきたいと思っています。

（花輪さくら保育園勤務）

接客は、おもてなしの心で

平成17年被服科卒　山内一美

私は卒業後、ファイブフォックスに入社しました。

仕事の内容は主に、接客・販売ですが、入荷した商品を納品する作業もあります。納品後、商品をいかにセッティングするかは、時期によって変わるので、常に勉強が要求されます。

この仕事をしていく中で一番大切なのは なによりも接客です。

「接客」というと、私はお店の商品を売ることだと思っていましたが、仕事をして行くうちに接客は、お客様をおもてなしすることだとわかりました。

学校でも学びましたが、日本人の和の心・おもてなしの心が大切です。心をこめて、お

子ども服のアドバイスをする山内さん

店にきて下さったお客様のお話を伺い、お客様が求めている商品をご紹介しています。

被服科で学んだ知識が職場でとても生かされます。お客様の立場にたって商品を分かりやすく紹介することで、お客様は安心して商品を購入することができます。知識を持って誠実に接客することが本当のおもてなしの心だと思います。

（コムサ・デ・モード　フィユ勤務）

憧れの職業に就いて

平成7年生活科卒　髙橋章子

私が社会人として初めての仕事は、給食委託会社で、調理を担当することでした。献立作成や発注業務をこなす日々に最初は、「私が描いていた栄養士像はこんな筈じゃなかった！」とジレンマを感じながら仕事に追われる毎日でした。しかし続けていくうちにいろいろなタイプの施設を見学することができたり、調理インストラクターから懐石風料理を教わったりして、決して無駄ではなかったと思っています。

入社して十年目に、管理栄養士の試験に挑戦しました。仕事をしながらの勉強は大変で、睡眠時間も少なくなり、毎日が睡魔との戦いでした。勉強した事が思うように頭に入らず、こんな事なら二十代のうちに受験すればよかったと何度悔んだことか…。受験し続けて三回目で合格しました。今は弘前市内の病院で、夢だった栄養指導を主とした仕事をしています。

今日も患者さんに喜んでもらえるメニューを考えています

栄養指導の仕事に就いてまだ半年ですが、患者さんから「勉強になった」「また色々教えて下さい」と声をかけられると今までの苦しかった事も一気に吹き飛びます。主に腎臓病の患者さんが多く、腎臓に関して知識が乏しかった私にとっては日々勉強です。

今後も初心を忘れないように、患者さんの力になれたらいいなと思っています。

（医療法人社団　クロース・トゥ・ユー　ESTクリニック勤務）

新入生がんばっています

夢は舞台衣装の製作!!

被服科一年　小野風花

入学して、あっという間に一ヶ月が過ぎ、朝から夕方までの授業に少しずつ慣れてきました。そんな中、被服に関する専門的な授業はもちろん、法学や社会学など、実生活に大いに生かせる興味深い内容が多く、楽しみながら授業を受けています。

入学前は、クラスの人数が少ない事に不安を抱いていましたが、むしろ少ないことで今はお互いの温かさを感じ、これからもっとクラスメイトとの仲を深めることができればいいなと思っています。

クラスには、入学する前から裁縫に慣れている人と初めての人がいますが、和裁の苦手な私は、多少の焦りを感じながらも衣料管理士資格の取得を目指し、将来の夢を叶えるために頑張っています。

私の夢は舞台衣装を製作する職業に就くことです。この夢は高校の時に文化祭でファッションショーをやったことがきっかけです。高校生活での一番の思い出でもあります。

この夢を叶えるために、色々なことに興味を持ち、たくさんのことを吸収し、日々の努力を怠らないようにしたいと思います。

染色学実習で　中央が小野さん

楽しい保育科

保育科一年　佐藤遥

保育科は一日中笑いが絶えないとても楽しいクラスです。

みんな子どもが大好きなだけあって、元気でやる気に溢れています。そのため、クラスのまとまりが良く、早くも団結力が備わりつつあるので、先生方から「さすが保育科だ!」といわれることがあり、嬉しく思います。

しかし、元気者の集まりの保育科も、いざ講義となると一人一人が真剣に取り組み「やる時はやる。楽しむ時は目一杯楽しむ。」と、きちんとけじめをつけるクラスです。

手遊びの練習中　前列中央が佐藤さん

講義では一般的な保育理論の他に、手遊び、リトミック、表現など子どもの「遊び」「生活」「成長」につながる保育実技の勉強も、みんなで楽しく学んでいます。

こうして将来子どもたちと向き合うことを目標に、新しいことを自分の中に習得することは、とても新鮮で充実しています。そこから保育という仕事の深さを感じ、保育士が子どもにとって重要な存在であることに改めて気付く毎日です。

短大生活は短い期間ですが、だからこそ一日一日を大切にし、頑張りたいと思います。そして〝保育士になりたい〟という同じ夢を持つ仲間と共に、支え助け合いながら楽しい短大生活を送っていきたいと思っています。

新生活スタート!

生活科一年　齋藤真実

不安と期待を胸に入学式を迎えて約一ヵ月が経ちました。慣れない環境の中、たくさんの友達ができとても充実した毎日を送っています。

短大生活は、今までの学校生活とは異なり戸惑うことがいくつかありました。一つは、講義が九十分であることです。最初の講義は私にとってとても苦痛でした。その他は、自分で履修科目を選ぶことです。栄養士や医療秘書の資格をとる上で大変悩みました。将来のことを考える重要性を改めて感じました。

友だちとの楽しい時間　中央が齋藤さん

また驚いたこともありました。それは担任の先生方の優しさでした。百人の学生をまとめるのは大変なはずなのに常に笑顔で接してくれます。また、学生からの質問も熱心に聞いて、きちんと対応してくださいます。先生方の共通点は、『気品』がある所だと思いました。

本学に入学した理由は将来のためもありましたが、一人の女性として『気品』ある人になりたいというのもありました。まさに先生方は私の憧れです。先生方の学生のために頑張っている姿を見ると、私も頑張ろうという気持ちになります。

そして今、先生方や新しい仲間と共に新しいスタートラインに立ち出発しました。あとはゴールを目指して、走るのみです。頑張ります。

体育部

第60回東北地区大学体育大会はじまる
バスケ部は北奥羽大会にも参加

全競技に先がけ六月十二日から仙台市で行われた弓道競技には、一年生を含む四名の有段者が臨みました。唯一の短大参加校として四年制大学を相手に善戦しましたが力及ばず、予選リーグ敗退という結果に終わりました。

バスケットボールは、先日弘前で開催された北奥羽大会に参加し、力試しをしました。一回戦で八戸大学に僅差で負けてしまいましたが、自分たちの課題を再確認し、本番に備え現在猛練習中です。

そのほか私が参加するバドミントンを始め、卓球、バレーボール競技も大会にはまだ日があり、どの部も実戦練習などに励んでいます。

学業や就職活動と両立していくのは大変で、思うように練習の時間がとれない日もありますが、同じ寮生が早朝練習に向かう姿や寮でもトレーニングをする様子を間近で見ていると、私も元気付けられ力が湧いてきます。

先日行われた壮行式で、学長先生はじめ先生方、全学友の応援を受け、私たち選手団三十八名は今最高に気持ちが高まっています。どこの大学にも負けないくらいの気合で、今までの練習の成果を発揮してきたいと思います。悔いのないよう選手一同頑張ってきます。

（六月十五日記）

副体育部長
生活科二年　二本柳安紀

試合直前の精神統一

'09 就職に向けて

★先輩の就職体験談

卒業生七人による就職体験談が五月二十六日に50講義室で行われました。

七人は「短大で学んだことはすべて役に立っている」「趣味や特技を持っておくとよい」「応募する時は職場訪問をして雰囲気をつかんでおくと、就職した時にとけ込める」「学生時代に、頼りになる友達を多く作っておけばよい」「保育職は学外実習をしっかり。学生時代に得意分野をのばしておくように」など具体的に話されました。一・二年生とも真剣なまなざしで聞き、メモする学生も多く質問がでるほどでした。

山内一美さん、吹田咲希さん、田澤沙耶さん、中村朱里さん、奈良岡佐和子さん、一戸晴子さん、間宮加奈子さん、ありがとうございました。

多くの体験例を話された中村さん

★父母会開かれる

六月十三日午後一時より二年生父母会が開かれました。

はじめに学長挨拶、学務課長、学生課長より今後の学生生活や進路状況のお話があり、その後各科に分かれて、具体的な懇談がもたれました。出席者の中には、ご両親で来学された方もいて、学生生活への関心の高さをうかがわせました。

サマー講座 2009

今年度も女子大（豊原キャンパス）、短大・栄専校（上瓦ヶ町キャンパス）の公開講座を開催します。参加ご希望の方は、ハガキに受講テーマ・住所・氏名・電話番号を記入の上、下記にお申し込み下さい。

東北女子短期大学・東北栄養専門学校

7／31（金）	9:30〜12:00	手芸染色を楽しもう 〜縫い絞りのミニハンドタオル〜 短大講師　木村秀子	高校生一般 20名
	9:00〜11:00	昔うたあそび お手玉・毬つき・竹がえしなど歌に合わせて遊ぶ 栄専校教諭　新岡みつゑ	高校生一般 40名
	13:00〜15:30	卵アレルギーの子のためのおやつ作り 短大講師　今井美和子	卵アレルギーにお困りのご家族 24名
8／1（土）	9:00〜12:00	おいしさを生かし上手に「減塩」 栄専校教諭　中野つえ子	高校生一般 30名
	9:00〜12:00	毎日のおかずを大切に ーおふくろの味をおいしくー 短大准教授　北山育子	高校生一般 30名
	9:00〜12:00	みんなで作ろう！ 楽しい夏の手遊び歌 短大准教授　小林由美子	高校生一般 30名

〈申し込み先〉〒036-8503　弘前市上瓦ヶ町25
東北女子短期大学　サマー講座係
お問い合わせは　0172−32−6151まで

東北女子大学

7／25（土）	9:30〜12:30	〔実習〕 青森県産小麦でニョキニョキニョッキ ー健康おいしい親子食育クッキングー 教授　富田雅弘 講師　今村麻里子	小学生以上と保護者 12組（約30名）
	10:00〜12:00	〔歌唱〕 「歌い継ぎましょう童謡・唱歌を」その6 教授　山崎祥子 准教授　一戸智之	小学生〜一般
	10:30〜12:00	〔講演〕 本の読み方について 〜速読・精読・遅読・再読・読解 芥川龍之介の「杜子春」をヒントにして〜 教授　佐々木隆	高校生以上

〈申し込み先〉〒036-8530　弘前市豊原1−2−1
東北女子大学　夏期公開講座係
お問い合わせは　0172−33−2289まで

第十二回学園総合体育大会

『躍颯～思い描く夢 風にのせて』をスローガンに掲げ、五月二十二日、女子大・短大・栄専校・コンピュータ校・経理校五校合同の体育大会が柴田学園総合グラウンドで行われました。

女子大三年大健闘の総合優勝！

堂々と入場行進

プラカードを掲げ、胸を張っての堂々とした入場行進で始まった総合体育大会。悪天候にもかかわらず一つの競技にかける思いがとても強く、熱が入っていました。

70m走では、俊足自慢が続々と目の前を横切り、その走りで周りを盛り上げてくれました。

障害物競走は気迫あふれた選手の姿が見られましたが、一方でぐるぐるバットで目がまわり、転倒した人もいました。これにはさすがに競技選びの失敗かと冷や汗の出る思いでした。

続く綱引きでは、チームの力が一体となり、声援で選手も輝いていました。

必死に引っ張った綱引き

いよいよ、応援合戦。各チームの個性が見られ、年々レベルが上がり、その演技はどれも甲乙付けがたい作品でした。

一位の女子大四年生の演技には、自然と引き込まれました。昨年優勝のプレッシャーをモノともしない貫禄のある舞に、誰もが圧倒されました。素晴らしい踊りに拍手喝采がわき起こりました。

応援合戦で２年連続１位
女子大４年チーム

応援合戦 保育科１年チーム
決めのVサイン

最後の競技リレーになると、各チームの応援には熱が入りました。フィールドの応援団が立ち上がってしまうほどの興奮で、黄色い声援が鳴り響き、会場を最後まで盛り上げてくれました。

ゴールを目指して猛ダッシュ
女子リレー

体育大会一週間前は、準備で忙しい毎日でしたが、こうして体育大会を進行できたのも、実行委員を始め、大勢の方々の協力のおかげだと思っています。チームワークが輝き、心の晴れる体育大会でした。

体育部長
保育科二年　鳴海　裕子

	総　合	応援合戦	綱引き
1位	女子大３年	女子大４年	女子大４年
2位	保育科２年	保育科２年	女子大３年
3位	女子大２年	女子大２年	女子大１年 保育科２年

全学ピクニック

青空の下　自然に触れて

六月十日、津軽富士見湖・鶴の舞橋へのピクニックは、最近になく好天に恵まれました。

到着してまもなく、豊かな自然をバックに各クラスの集合写真を撮りました。その後、アスレチックや持ってきた道具で遊んだり、炭をおこして焼肉をしたりなど、思い思いに楽しんでいました。肉や野菜、焼きそばを食べながら会話も弾み、仲間同士の親睦も深まったように思います。

アスレチックでは、直降下する滑り台やローラー滑り台があり、スピードがのってくると歓声があがり、生き生きした表情でした。

帰る際も、来た時よりもきれいになっていて環境に配慮する心を嬉しく思いました。

参加した学生の笑顔に出会え、係としていい思い出作りを手伝えた充実感でいっぱいになりました。

ピクニック実行委員長
保育科二年　尾田　望

学園祭準備スタート

今年の学園祭は十月二十四日、二十五日に行われます。

五月二十三日に、短大、三専門学校合同の第一回実行委員会を開き、初顔合わせと、これからの予定確認をし、準備がスタートしました。また第二回実行委員会では、応募総数三四八通の中から次のテーマが選ばれました。

これから話し合いを重ねて進めていきますが、新たな思い出として心に刻まれるような学園祭にしたいと思っています。皆さんご協力お願いします。

学園祭実行委員長
生活科二年　大下由香里

統一テーマ
友愛
～100カラットの笑顔～

保育科二年　原田　淑子
保育科二年　對馬なつみ

編集後記

学園念願の女子大新築のニュースをトップに、天候でハラハラした体育大会など、各校学生の活躍ぶりをお伝えします。

また長らく研修や合宿に利用され、学生のきずなを深めてきた山の家にもスポットをあてました。

天候不順の遅い夏！元気にのりきりましょう。

（学生課・工藤）